



成長への環 つながりの和 地域との輪
稲付中学校だより～自律と自立～

NO. 6

令和7年10月1日
校長 名取 秀康

～地域の子ども神輿を通して感じたこと～

校長 名取 秀康

夏休みが終わって一か月が過ぎました。充実した夏休みも遠い、遠い昔のようです。学校だより9月号でお知らせしましたが、9月第1週目は「稲中サブファミリー挨拶週間」でした。うめのきなかよしこども園、梅木小、西が丘小それぞれに大きな成果があったようです。本校でも一人一人の生徒が自分自身の「挨拶」について考える機会となったようです。以前よりも大きな声で挨拶をするようになった生徒、声だけでなくお辞儀をして挨拶をするようになった生徒、会釈だけでなく声を出して挨拶をするようになった生徒等、成果は様々です。挨拶はコミュニケーションの第一歩、生徒の皆さんには素敵な挨拶を身に付けてほしいと願っています。

さて、私事ですが、9月6日(土)、7日(日)に地元町内会主催の子ども神輿、山車のお手伝いをさせていただきました。当日、初めて参加する私は張り切って子たちが来るのを待っていました。が、なかなか子どもたちは現れません。10分前くらいから少しずつ集まり何とか形になる人数までになりました。初日の私の役割は山車を後ろから押していくことでした。山車の上には太鼓をたたく子どもが二人、最初は遠慮がちにたたいていましたが、雰囲気慣れてくると「ドン・ドン・カッ・カッ、わっしょい！」と大きな声まで出すようになりました。翌日は子ども神輿のフォローでした。担ぎ手の子どもたちも前日に比べ少なく、担いでいる子どもも必死です。私の後ろの子どもは神輿の重たさに耐えながらも一生懸命「わっしょい！」と声を絞り出していました。大変ながらも最後まで担ぎとおしたその子どもの顔は達成感に満ちていました。ご褒美のかき氷を美味しく食べている顔がとてかわいらしかったです。

終わった後、反省会にも参加させていただきました。役員の皆さんは「子どもの笑顔のために」「もっと、たくさんの子どもたちに参加してもらうために」等、子どもたちファーストでの話し合いが真剣に行われていました。地域の大人の子どもへの「愛」を感じた2日間でした。慣れない神輿担ぎでクタクタになりましたが何とも言えない心地よい疲労感でした。

きっと、稲付中の生徒も同じように地域の皆様のたくさんの愛情によって育っているのだと改めて感じました。皆様の無償の愛情に心から感謝いたします。子どもは「地域の宝」、今後も、家庭、地域、学校が三者一体となって子どもたちを育てていけたらと思います。

子どもたちの未来を共に「わっしょい！」

<10月主な行事>

3	金	マナー教室(1・3年) 職業キャラバン(2年) 特別時間割	17	金	教育実習終了(保健体育) マナー教室(2年)
6	月	全校朝礼 安全指導	20	月	全校朝礼(生徒会新旧交代式)
8	水	スクールコンサート	21	火	避難訓練 専門委員会
10	金	1学期終業式 教育実習終了(社会) 特別時間割	24	金	中央委員会 漢字検定(3年)
13	祝	3年修学旅行(京都・奈良)始	27	月	生徒会朝礼(委員認証式)
14	火	2学期始業式 特別時間割	28	火	北区中学校連合音楽会 3年進路面談始
15	水	3年修学旅行 終 防災学校(2年) 特別時間割	31	金	北区中学校連合学芸会
16	木	3年修学旅行振替休業 特別時間割			

